

## 第1回ソーシャルファームに関する指針に係る検討会 議事要旨

日時：令和2年2月6日（木） 16:00~17:00

場所：東京都庁第一本庁舎25階116会議室

議事概要：

- 1 開会
- 2 委員紹介、座長選任
- 3 指針（認証基準・支援策）の検討事項等の説明（事務局）
- 4 ドイツのソーシャルファームの現状の説明（事務局）
- 5 意見交換

### 【主な意見の概要】

#### （ソーシャルファームの経営や担い手について）

- 特例子会社は、親会社の法定雇用率達成を目的としているため、多数の障害者が働いているが、親会社から支援を得ており、自律的な経営という点で議論が必要。
- ソーシャルファームは経営の視点が重要である。経営者が、障害者の雇用という社会的な問題を解決したいというビジョンや目的を持ちつつ、経営のセンスを持った方である必要がある。
- ソーシャルファームを担いする社会的な使命感を持った人として、退職間近でビジネスの世界で様々な競争を経験してきた経営者などが考えられる。
- ソーシャルファームが成功している諸外国の例では、ある一定の職種に就くと、次の職場に行っても前の職場での給料が保証されるシステムとなっている。このため転職がしやすい。日本では仮に転職してソーシャルファームを立ち上げようとしても、収入が大きく下がってしまう点も問題ではないか。

#### （認証基準について）

- 認証とは、ユーザーに対する情報保証的なものか、公費を投入することの妥当性を保証するものか、また、社会的に活動の意義を示すことによって活動を支援するものなのか、その目的を明確にしておく必要がある。
- 認証していくに当たり、就労困難者の範囲や全従業員に占める就労困難者の割合というのは重要な事項である。
- 日本では既に障害者のための制度、その他の福祉制度が多く存在するが、その中でソーシャルファームの制度をどう具体的に構築し、どのような位置づけにするかがポイントである。
- 認証基準や審査方法をどのように定めていくかは、生産性や事業の継続性という観点からも重要である。

#### （支援策について）

- 諸外国の例では、補助を受けられる5年間を過ぎたらソーシャルファームをやめてしまう場合もある。そうならないように事業継続していくためには、どうすればいいか考えることが大切である。
- どのようにして自律的経営に向けて動いてもらえるか、そのためどのような条件としていくかを考えることが重要である。
- 事業を成り立たせるためには、補助金だけでなく、クラウドファンディングの活用も考えられるのではないか。また、商品の競争力をつけるための支援も大切である。
- 諸外国の例では、人材育成を実施しているところもある。